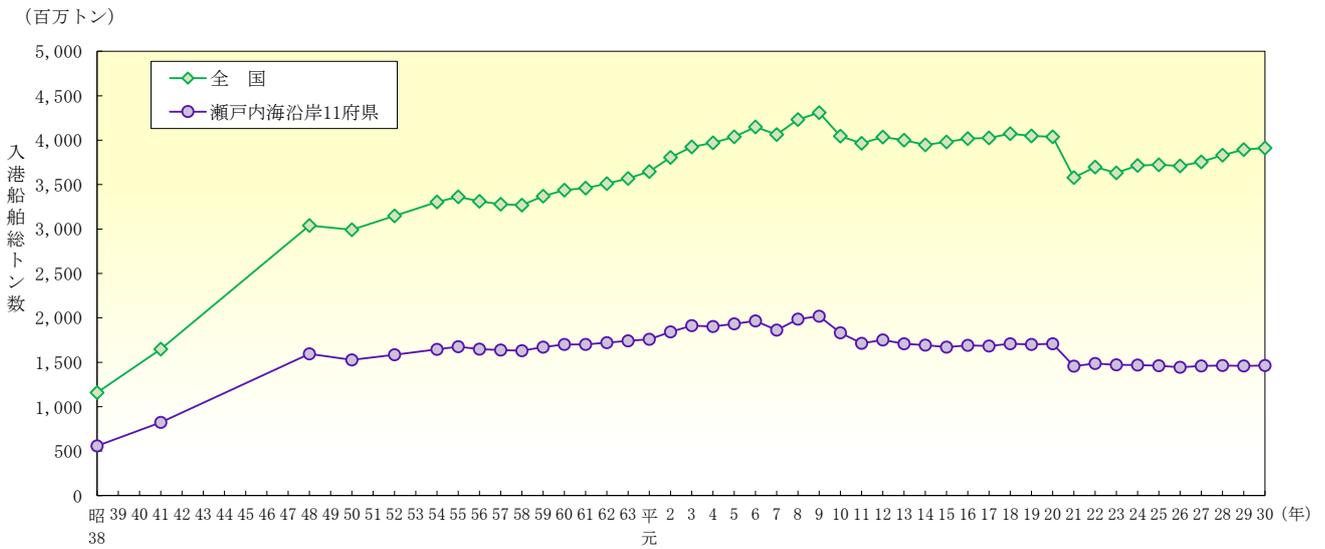


2 産業の現況

2.4 海運等の現況

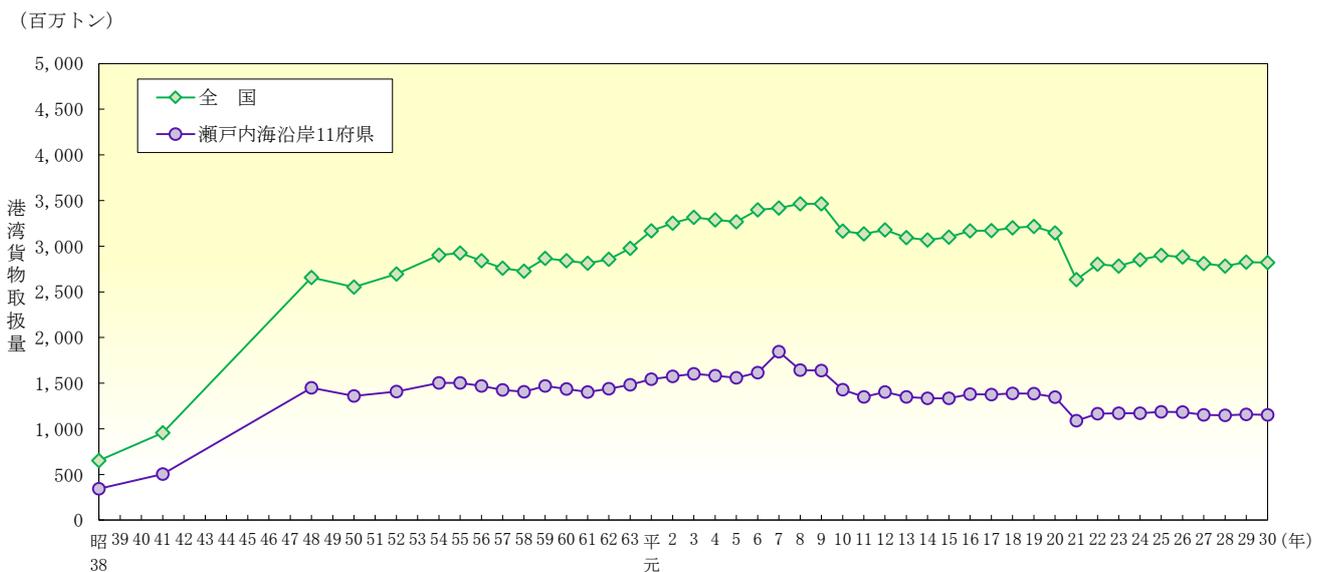
瀬戸内海における平成 30 年の入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量は、全国の約 37～41%の割合を占めている（図 2-10、2-11）。入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量はともに、昭和 38 年から昭和 48 年にかけて 2 倍以上に急増しその後、ほぼ横ばいで推移している。

また、令和元年の主要狭水道における 1 日平均の通航船舶隻数は、瀬戸内海で最も多かった明石海峡で 583 隻となっており、東京湾口の浦賀水道における 520 隻に比較して多い（図 2-13）。府県別入港船舶・貨物利用状況と瀬戸内海の港湾・航路を表 2-7、図 2-12 に示す。



出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

図 2-10 瀬戸内海沿岸 11 府県における入港船舶総トン数の推移



出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

図 2-11 瀬戸内海沿岸 11 府県における港湾貨物取扱量の推移